

# **JACA** No.11 A – 2003

---

## 空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法指針

Standard of Test Method for Combution of Air Filter Media

**JACA**

公益社団法人 日本空気清浄協会

JAPAN AIR CLEANING ASSOCIATION

## 目 次

序 文	1
1. 適用範囲	2
2. 引用規格	2
3. 定義	2
4. 測定原理	2
5. 装置及び器具	2
5.1 燃焼試験装置	2
5.2 支持金網	2
5.3 試験片支持装置	3
5.4 ガスバーナ	3
5.5 使用ガス	3
5.6 計時装置	4
5.7 スケール	4
5.8 試験環境	4
5.9 デシケータ	4
6. 試験片	4
6.1 形状及び寸法	4
6.2 試験片の採取	4
6.3 試験片の状態調整	4
6.4 標識用綿	4
7. 試験手順	4
7.1 試験片支持装置の調整	4
7.2 標準用綿の準備	4
7.3 試験片のセット	4
7.4 燃焼手順	4
7.5 測定	5
8. 計算	5
9. 燃焼性の区分方法	5
10. 試験報告書	6
空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法指針解説	7
付属資料 1 各種規格試験方法	11
付属資料 2 試験結果報告	14
付属資料 3 新燃焼性試験法 (ISO9772に準拠) と JIS法の比較	17
付属資料 4 JACA No.11A-2003 ろ材燃焼性試験測定用紙	18

# 空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法指針

Standard of Test Method for Combustion of Air Filter Media

JACA No.11A-2003

昭和52年11月4日 制定

平成15年5月31日 改正

社団法人日本空気清浄協会  
空気清浄装置ろ材燃焼性試験方法改正原案作成委員会  
委員長 横地 明

## 序 文

「空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法」(JACA No.11-1977)は、日本空気清浄協会の技術委員会の下に設置されたろ材専門委員会において検討されたもので、昭和51年9月(1976.9)にJACA指針No.11として原案が公表された。その後、提案された意見を再検討するために、さらに設備業界の代表を加えて昭和52年2月より同年10月まで5回に渡る審議を重ね、昭和52年11月に本指針は制定された。

平成12年度に、日本空気清浄協会では全指針の見直しを行ったが、本指針は既に制定より23年が経過し、現状のフィルタろ材燃焼性試験方法として適性を欠き、殆ど利用されていないことが明らかとなった。

平成12年度第2回技術委員会において、平成13年度において本指針の改正を検討することが決定され、平成13年(2001年)9月「空気清浄装置用ろ材燃焼性試験方法改正委員会」が発足した。

改正にあたっては、関連する国内外の規格を調査し、特に国際規格との整合性を重視し、国際的にも通用し得る規格として、幅広い検討を行ってゆくことになった。

本規格に関係のある協会会員に参加を募り、産学からなる委員会を構成した。委員会活動を円滑に行うため、幹事会の他、以下の3つのワーキンググループを設置した。

WG1：国内外の規格調査

WG2：要求される難燃グレードの調査

WG3：比較燃焼試験

作業にあたって、各メーカーが実際に取り入れている試験方法や、それらの課題をアンケートで調査し、取りま

とめている。また、各メーカーから提供された試料を原案に沿って実際に試験し、他の試験方法との比較や結果の整合性、再現性を検討し、原案作成に反映した。

本指針は、それらを集約したもので、本文、付属書、解説からなる。

委員会委員は以下の通りである。

- ◎横地 明 (東海大)
- 辻 久男 (㈱アクシー)
- 井上達朗 (日本バイリーン㈱)
- 菊実 修 (ミドリ安全㈱)
- 吉澤 巖 (㈱ゲン・タクマ)
- 山本 晃 (金井重要工業㈱)
- 住岡将行 (ニッタ㈱)
- 中島博幸 (呉羽テック㈱)
- 弥城 豊 (日本エアー・フィルター㈱)
- 山口 健 (日本無機㈱)
- 奥山一博 (進和テック㈱)
- 本間克典 (日本ダイレックス㈱)
- 川村秀夫 (㈱忍足研究所)
- 白鳥 守 (ダイニック㈱)
- 松浦和夫 (北越製紙㈱)
- 谷 直起 (積水化学工業㈱)
- 鳴津和雄 (㈱日本空気清浄協会)
- ◎委員長 ○幹事

オブザーバー

富岡孝宏 (日本バイリーン㈱)

須賀茂雄 (スガ試験機㈱)